

3. 本年低温異変と鯨漁への影響

宇田道隆 (東京水産大学)

昨年11月から日本列島の太平洋側では三陸以南に、また日本海側では能登以南九州、東支那海から台湾に至る海域で低温現象がみられ、2~3月に最低温となつた。逆に新潟以北は平年より高く、また三陸の宮古以北は平年より1.0℃以上高温となつている。この異常海況により各海域で漁業に若干の被害が出ている、沿岸漁業に特に著しい。それらの主なものを次にあげる：

対馬 : イカ不漁、ブリ・タイの斃死、山口県、九州北部、宍粟平戸島、五島、天草、コシキ島とも磯魚斃死。

大村湾 : 真珠貝の凍死及び品質の低下、時津地先シマアジ・シマイサキ仮死浮流7トン拾う。

鹿児島 : 沿岸凍死魚頻出、奄美大島、種子島、屋久島方面「瀬魚」
「磯魚」凍え浮流を1~2月拾う。

瀬戸内海鳴戸その他 : イカ・タコの凍死、徳島県北マダイ・グチ・カワハギ斃死4,000kg、紀北でもカタクチイワシ・クロダイ等斃死。

三陸、常盤 : 3~4月にニガシオ大発生、茨城-福島珍しいスケソウ豊漁、小名浜アンコウ豊漁。

黒潮沿岸 : ブリ大不漁、伊豆、三重、土佐、日向大凶漁、土佐湾須崎でクロダイ斃死、四万十川口スルメイカ斃死。

外房勝浦方面 : 3月磯魚浮上、八丈島、新島、大島、三宅島、式根島、利島12

銚子沖 : 寒サバ大不漁、茨城沖斃死サバ。オットセイ大群来遊。

相模湾 } : 夜光虫、赤潮の発生 伊豆南西岸、浜名湖でも凍魚多量。伊豆
駿河湾 } 東岸定置にサケ2尾。

(スルメイカ下田以南まで南下好漁)

山陰、九州沿岸 : 1~3月季節風を受けた北西向海岸、河川水(雪どけ水)

の流入する海岸に低温甚だしく、アイゴ・フエフキダイ・イスズミ・メジナ・カワハギ・ハタの類、ホウボウ・タイ・イカなど数十種の凍魚を

をみた。五島列島では水ノ浦湾でカタクチイワシ450匹も拾われ、甑列島でも、薩南でも斃死サバを散見した。沖で白く腹をかえしたサバ群が一条すじをひいて浮流をみた船もある。

黄海、東シナ海方面：冬季々節風連吹で底曳トロール船も旋網船も休漁同然で仕事にならず、シケをついて操業した船も思うような成果はなかつた。底魚漁獲は例年より2~5割減少。旋網のアジ、サバも凶漁。黄海底冷水発達し、沖アミ発生分布例年より多く、今後ソコトラ方面を中心にクジラ漁場など楽しみである。

黒潮流域鯨漁場：鯨漁期おくれ、南方種北上もおくれて少ないだろうが、熊野灘沖や、小笠原方面、琉球台湾方面など冷水南下、南方まで海が肥沃化されて今後の好果期待。

西日本ハマチ養殖：流藻、モジャコ今春さつぱりとれず、おくれ、生産低下。

海産稚鮎：大へん少なくなり、種苗難。

シラスウナギ：北上接岸おくれ、生産少く、種苗難。

4. 鯨と海況変動についての近況

渡瀬節雄（大洋漁業仙台支社）

三陸沖合のミンク鯨漁は例年より2週間遅れの3月8日に初漁があつたが以後も不振である。またミンクの餌になるメロウド・イサダも海況異変で不漁を続け、主水揚港である女川、渡波等例年の $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{10}$ の漁で加工業者は悲鳴をあげている状況である。また4月11日よりマッコウ鯨漁が解禁になつた沿岸捕鯨も南氷洋捕鯨の終漁が遅かつた関係もあり5月初めのヒゲ鯨解禁日